



AT-TQ2450 リリースノート


この度は、AT-TQ2450をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.1.0

2 本バージョンで追加された機能


ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 詳細設定 / Managed AP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)

「詳細設定」メニューに Managed AP 画面が追加され、Managed AP モードが設定できるようになりました。このモードを有効にすると、無線コントローラー (AT-UWC) の管理下で動作するモードとなります。無効にすると、通常のアクセスポイントとして動作します。デフォルトは「有効」です。これが有効に設定されていても、アクセスポイントが無線コントローラーに接続できなければ通常のアクセスポイントとして動作しますが、無線コントローラーとともに本製品をご使用にならない場合は、これを「無効」に設定してください。

2.2 ステータス / Managed AP DHCP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「Managed AP DHCP」](#)

「ステータス」メニューに Managed AP DHCP 画面が追加されました。この画面により DHCP のオプション 43 で取得した無線コントローラー (AT-UWC) の IP アドレスとベースポート番号を表示することができます。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様に変更されました。

3.1 IP アドレスの取得

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


「詳細設定」メニューに Managed AP 画面が追加されたことに伴い、「詳細設定」メニューのイーサネット設定画面の「IP アドレスの取得」のデフォルトが「スタティック IP」から「DHCP」に変更されました。本製品が DHCP サーバーから IP アドレスを取得できなかった場合は「192.168.1.230」となります。

3.2 DNS ネームサーバー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「IP アドレスの取得」のデフォルトが「DHCP」に変更されたのに伴い、「DNS ネームサーバー」のデフォルト値が「マニュアル」から「ダイナミック」に変更されました。

3.3 SNMP のコミュニティ名

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

「オプション設定」メニューのSNMP画面の「Read Only のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「トラップのコミュニティ名」で半角英数字に加えてアンダーバー「_」が使用可能となりました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本製品の起動が完了する前に電源をオフにすると、ファームウェアのバージョンの表示が「0.0.0」に変わることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 サポートレートで有効にしているレートの組み合わせによっては、その設定の最高レートによる送信が行われないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 「チャンネル自動管理」画面において、周波数帯が「??？」と表示される場合がありましたが、これを修正しました。
- 4.4 「直前のピーコン」の時刻表示が正しくないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUcastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップしていましたが、これを修正しました。
- 4.6 対応していない SNMP のバージョンで GET-Request を受けたとき、snmplnBadVersions のカウンターがアップしませんでした。これを修正しました。
- 4.7 SNMP Manager で ifInErrors を GET すると、値が常に 0 になっていましたが、これを修正しました。
- 4.8 「DNS ネームサーバー」の IP アドレスが空欄のままでは「IP アドレスの取得」を「DHCP」に変更することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.9 「IP アドレスの取得」が「DHCP」で「DNS ネームサーバー」が「マニュアル」（IP アドレス入力）の状態に設定されているとき、「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」に変更することができませんでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 1.1.0 には、以下の制限事項があります。

5.1 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

5.2 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


- 「プロテクション」を「オフ」にしても RTS/CTS が送出されます。
- サポートレートを超えるレートで送信されたパケットを受信します。
- 「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更がただちに反映されません。「無線 2」の「ステータス」を一旦「オフ」にして「オン」にするか、本製品を再起動してください。

5.3 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)


- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。
- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線 1 と無線 2 の両方がオンに設定されている状態で、セキュリティとして WPA エンタープライズ (WPA2、CCMA (AES)) または IEEE 802.1X を選択し、VAP の 13、14、15 のいずれかの「有効」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックすると、該当の VAP に接続できないか、接続できても通信できません。再度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより接続および通信ができるようになります。

5.4 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)


LAN ポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、送信 / 受信の総パケット / パイット数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。

5.5 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

- cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。
- 「NoAck サポート」は機能いたしません。
- 「APSD サポート」は正常に機能いたしません。

5.6 設定、アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)


[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

重要：アップグレードやダウングレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードやダウングレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレードやダウングレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードやダウングレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。


- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜きなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。
- ファームウェアのアップグレードを実行した後、本製品に保存されている予備のファームウェア（アップグレード前のファームウェア）に切り替えると、Device Bootup メッセージはアップグレードしたファームウェアのバージョンを表示します。
- ファームウェア転送中に Web ブラウザーを開けると、本製品が再起動します。

5.7 Web 設定画面

- 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33～99 の値を入力すると、画面下部にデバッグメッセージが表示されます。また、マスク長の値を 100 以上にすると「サブネットが無効です」というメッセージが表示されます。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがあります。


 [「リファレンスマニュアル」 / 「クラスター」 / 「チャンネル自動管理」](#)

- Web ブラウザーのキャッシュの影響によって画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、キャッシュをクリアしてください。

6 オンラインヘルプの訂正

オンラインヘルプ（ファームウェアバージョン 1.1.0B03）の誤記訂正です。

6.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VAP」](#)

[「オンラインヘルプ」 / 「詳細設定」 / 「VAP」](#)

「VAP」画面の「IEEE 802.1X」および「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」のデフォルト値として「300」が記載されておりますが、正しくは「0」（キーを更新しない）です。訂正してお詫びいたします。

7 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001462 Rev.B）は弊社ホームページに掲載されております。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっておりますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

